

平成20年度 事後評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター
 研究責任者 研究課長 古原敏弘
 研究担当者 研究職員 甲地利恵

課題番号	ア文研一般2006		研究課題名	鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究		
課題担当者	1人		研究区分	研究	試験	調査
共同研究機関(協力機関)	なし		研究期間	17年度～19年度		
			全体所要額(千円)	187 (一財 187)		

研究の概要

研究背景
 ・研究のニーズ(重要性・緊急性)
 近年、アイヌ文化の復興気運や道内外からのアイヌ文化への関心が高まっており、伝統的な歌や踊りは、披露したり鑑賞されたりする機会も増えていることから、過去の伝承曲を演目に加えたいという伝承者や伝承団体も少なくない。しかし一方で、それぞれの地域での伝統的演目や伝承内容の変遷を知る情報、伝承者自身による説明の記録等が、アイヌ音楽の研究資料として十分に蓄積されていなかったり、断片的な情報しか伝わっていなかったりする。また、昔の歌を知る古老も少なくなりつつある。こうした状況から、それぞれの地域における伝統的な演目について、内容や伝承状況などの情報を、先行する資料及び伝承者からの採録に基づいて集積・整理する必要が高まっている。このような背景のもと、先行する資料や情報があり、伝承保存会等の団体による伝承活動も活発な地域の一つであり、新たに採録調査を行える可能性も比較的高い地域として、本研究は鶴川地方を対象とした。

・道が取り組む必要性
 本研究は、アイヌの伝統的な音楽の内容や伝承の実態について、過去の資料とつぎ合わせながら情報を整理するという基礎的な調査研究であり、アイヌ文化の復興と理解の促進を進めることを掲げている北海道が主体となって本研究を実施することが、適切かつ必要不可欠である。

・関係機関等との連携・役割分担
 伝承者との連絡調整等にあたり、社団法人ウタリ協会の当該地支部や伝承保存会、文化施設関係者などに協力を仰ぐこともあったが、調査研究自体は当研究センターが主体となって進めた。

・これまでの研究成果・知見、外部機関の知見等の活用の考え方
 アイヌ音楽について網羅的に行われた調査記録としては、NHK札幌放送局による1961年から1962年にかけての『アイヌ伝統音楽』の事業が最大である。また、北海道教育委員会などによる調査事業もいくつかあり、報告書が刊行されたものもある。さらに、市町村や民間音楽産業が編集・発行した音声資料・映像資料なども蓄積されつつある。これらの先行する資料は、各地域の伝承曲の概要を把握するために活用した。特にNHKの『アイヌ伝統音楽』からは、それぞれの地域で約50年前に伝承されていたと思われる曲目をリストアップすることができるため、本研究の実施にあたっての調査項目を仮設定する上で活用した。

研究目的
 ・鶴川地方におけるアイヌの音楽文化について、各ジャンル及び1曲毎の情報を整理し、研究や伝承活動に役立つ基礎資料、参考資料を作成する。

研究内容
 ・鶴川地方を対象に、主に儀礼などの場での音楽(座り歌、踊り歌など)や日常的・私的な場面での音楽(子守歌など)について、新たな採録を行うとともに、既存の音声資料や過年度において実施した調査資料との比較を行い、それぞれのジャンルの特徴や1曲毎の歌詞、旋律、歌い方の特徴、時代的变化などについて情報をまとめる。

研究の成果

直近の研究課題評価における総合評価意見及びそれに対する取り組みの状況(直近評価に対する対応の適切性)

既存の資料と新たに採録された資料を基に、鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽に関する知見が蓄積されたことから、当初の計画どおりに取り組みが進められ、目標を十分に達成できた。

直近の研究課題評価結果
 平成18年度 中間評価
 【自己評価】(A) B C
 【総合評価】(A) B C

研究開始後の事情変更の有無及び対応の状況(状況変化への対応の適切性)
 過年度の採録内容についての補足調査は、伝承者の高齢化や体調の変化などにより調査ができない相手もあるなどの事情の変化はあったが、計画全体を大きく変更するようなものではなかった。
年次別目標とそれに対応する実績及び研究成果(目標の達成度)

主な目標(項目)[年次] (事前評価時点)	(直近評価時点における変更点)	研究目標に対応する実績等 (事後評価時点)
平成17年度(既存資料の調査と内容整理、聴き取り調査)	特になし	過年度採録資料の内容との比較を中心に、聴き取り調査を行った。
平成18年度(既存資料の調査と内容整理、聴き取り調査)	特になし	採録資料の内容整理を進めると共に、聴き取り調査を行った。また、公刊された音声資料や文献等についても悉皆調査を行った。
平成19年度(聴き取り調査、まとめ)	特になし	補足調査を含めた採録資料の内容整理及び既存の資料から歌や踊りに関する情報を抽出し、曲別の情報を一覧できるようにデータを整理した。

研究に係る資源配分の妥当性(研究資源配分の妥当性)
 鶴川における伝承状況の確認が主体の予算配分であり、当初から基礎的資料の収集を図ることが目的であったことから妥当であった。

成果の活用策

活用される分野及び具体的な活用方策(成果の活用の可能性)
 鶴川地方に伝承される伝統的なアイヌ音楽の情報を、1曲ごとに見やすいかたちに整理・編集し、報告書を作成する。また、採録資料から抽出した歌唱を収めたCDを作成し報告書に添付する。これは、アイヌ音楽を研究したい人にとってはその基礎資料として、また伝承活動をする人にとって参考資料として活用されることが期待できる。
 今後の対応
 同様の調査を他の地域に拡げ、それぞれの地域における音楽の伝承状況や伝承内容を把握し資料化する。

【個別評価】 a・b・c	直近評価に対する対応の適切性	【 a 】	資源配分の妥当性	【 a 】
	状況変化への対応の適切性	【 a 】	成果の活用の可能性	【 a 】
	目標の達成度	【 a 】		

【自己評価】
 (A)・B・C
【説明】
 本課題により、鶴川地方のアイヌの伝統音楽についての基礎資料の蓄積が図られ、平成20年度中に報告書の刊行も予定しており、アイヌ音楽研究や伝承活動等への活用が期待されるなど有意義な調査研究であった。

追跡評の必要性
 当初の目的を達成し、報告書の刊行により普及も図られることから、追跡評価は行わない。

【総合評価】
 (A)・B・C
【意見】 本研究では、鶴川地方におけるアイヌの伝統音楽に関し、儀礼などの場や日常的・私的な場における音楽について新たな採録を行い、そのジャンルの特徴や曲の歌詞、旋律等についての情報が蓄積・整理されるとともに、成果はCD添付の報告書として刊行される予定であるなど、目標を達成し、十分な研究成果が得られている。

追跡評の必要性
 本成果は、アイヌ音楽研究や伝承活動において活用される基礎資料であることから、追跡評価の必要性はない。